

地球科学輻合ゼミナール

(2011年度 後期 第5回)のご案内

遠隔観測と直接観測を用いた地球電離圏および磁気圏プラズマ電磁場環境の理解と海外における研究生活

桂華 邦裕

米国・ニュージャージー工科大学物理学部

熱圏・電離圏などの地球超高層は、プラズマ運動および電磁場を介して地球磁気圏さらには太陽系惑星間空間と結合している。この太陽地球系グローバル電磁場システムを理解するため、これまで多くの人工衛星によって物理パラメータが直接観測され、現象中に放出される電磁波(オーロラ光など)や中性粒子が遠隔観測されている。また、プラズマ物理の視点では、太陽系宇宙空間はプラズマや電磁場を直接観測できる唯一の領域であり、特に地球周辺(地球磁気圏や地球近傍惑星間空間)は最も身近な実験室であるため、物理パラメータの直接観測は、太陽物理学や天文学の重要テーマ(太陽フレア爆発や宇宙線加速)にも有益な情報を提供することができる。本講演では、そのような衛星観測で得られたデータを用いた最新の研究成果を紹介する。また講演者の欧州(オーストリア)でのポスドク生活や、アメリカでの研究生活の様子も紹介する。

11月16日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室